

藝園草牧

第十四卷・第七号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便
昭和四十一年七月一日(每月一回)二日



雪印種苗株式會社
中央研究所農場

雪印種苗株式會社

飼料作物の病害 (I)

家畜ビートの主なる病害と防除

てん菜研究所 杉本 利哉

ビートに発生する病害は数十種にもなるが、北海道で特に大きな被害をあたえるものに立枯病、根腐病、葉腐病、褐斑病、蛇眼病及び貯蔵腐敗病等がある。これらの病害は一般製糖用のビートに発生するものと全く同一であり、従って防除法もこれに準じて行なえば良い。

立枯病

本病は1つの菌によって犯されるのではなく、北海道では少なくとも4種以上が関係している。発病は大体発芽時より見られ、間引頃には終止する。病状は図版のように根の部分がくびれて茶褐色となり、最後に地上部はしおれて枯死する。軽い場合には間引頃より快復するが生育が遅れる。防除法は播種前に種子を有機水銀剤で粉衣消毒し、紙筒栽培のときは1冊当りの床上にデクソン剤40gを混入する。直播畑にはデクソン剤かPCNB剤を10a当り10kg程度施すと効果が認められるが、やはり紙筒移植が望ましいといえる。



立 枯 病

根腐病

この場合も数種の菌が関係するが、北海道では普通リゾクトニア菌が主なるものである。発病は7月下旬頃より始まり、先ず葉柄の基部の方より黒褐色となって病気が展がり、遂には枯死する。この場合には根は冠部を中心に腐敗を起している。防除法は7月中旬頃にこのような発病株を中心にPCNB剤を畑に散布すると一応病気の展がりを抑えることが可能である。抵抗性品種は現在までのところみつからない。



根 腐 病

褐斑病

本病は前年度の畑に捨てられたビートの罹病茎葉及び感染した種子によって発病する。普通7月中旬頃より葉に直径1~5mmの病斑がみられ、次第に展がって葉全般に及び遂には枯死し、9月に新葉が出る様になる。この様になると収量は2割も減ずることがある。この防除には7月下旬より9月上旬にかけて有機錫剤を3~5回散布する方法がすすめられている。本病には抵抗性品種が見つかったのでなるべくその様な品種を用いることも必要である。



褐 斑 病